

39号 (7月号) 2016年 7月1日	七里ヶ丘こども若者支援研究所 それが社会参加だ!	住所:鎌倉市七里ガ浜東 2-31-12 連絡先:090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長:新舛秀浩 発行責任者:滝田衛
-------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

夢中を応援する活動、始めました 龍崎明信さん(会員)

いじめ、自殺、少年犯罪。若者を取り巻く問題は相変わらずニュースで報道され続けています。学校を卒業して久しいですが、未だにそのようなニュースがあることを残念に感じ、なにかできることがないか、考え始めました。しかし教育者でもない者が、直接指導することも、学校に新しい施策を作ることもできません。

そんな中、目に止まったのが、中学生によるロボコン大会でした。内容は大人でも感心してしまうほどのレベルの高いものでした。これだけのものを達成するエネルギーに感心しました。きっと「やらされていた」行動なら、あれほどのエネルギーは生まれにくいでしょう。自ら、夢中にならなければ、生まれにくいエネルギーです。私はそれを応援したくなりました。夢中になれば、達成できる難題もあると思います。そして達成出来た難題は、自信になります。その自信は、若者を取り巻く問題から、若者たちを遠ざけると考えています。だから夢中を目指してほしい。誰もが夢中を目指したくなるように、その活動を写真として残すことを考えました。そうすることで、夢中のイメージが向上すると思ったのです。

この活動はまだ実績がなく、その効果は測定できるものではありません。また似たような試みもなく、良い結果に繋がるかそうでないか、予測もできません。しかし、何もしなければ何も変わらないことだけは分かっています。今はこの活動を進めることで、夢中のイメージが向上し、若者の自信に繋がると信じて、活動の一步を踏み出したばかりです。事業名 リトルエジソン ウェブサイト URL HP:<http://little-edison.com> を公開しています、ぜひご覧ください。



この花はジャカランダというアフリカ原産の木です。神奈川歯科大学が日本の最北限生息地と言われています。毎年この時期に紫色のきれいな花を咲かせています。平日にも一般の方が見にいらしていますが、近年はジャカランダフェスを開催して大勢の方に楽しまれています。ぼくは毎日見てはいましたが、なかなか写真を撮る機会がなく今年こそは満開のうちにカメラに収めようと考えていました。今年のフェスが6/19にあり応援団会議の日と重なっていて絶好の機会とばかりに撮影しました。

撮影者:川辺悟史さん

コラム風

6月26日、加藤彰彦さんが“泰山塾”を始められた。昨年11月8日に本研究所講演会「大人社会が変わるために～社会と教育の仕組みを変える～」でお話し頂いた、僕が勝手に師と仰ぐ方です。沖縄大学学長を退官され、地元横浜で学びの場を提供したいと、その講演会でも熱く語られていたが、いよいよ行動に移された。会場は横浜市立大学金沢八景キャンパス・交流プラザ。テーマは「現代における学びとは何か学ぶこと、生きること」、安河内敏さん(北星余市高校校長)との対談形式、司会は須田大輔さん(余市高校・沖縄大学卒)。南北に広がる雄大な人生観の学びの時間。「定着と放浪。親から離れること。生活から離れる学校。子どもと同じ目線に立つ。学ぶことは一緒に生きること」「子ども同士が抑圧関係となる学校」、記憶に残る言葉でのご報告。 滝田衛



6月19日こども若者応援団 **仕事とお金？ 給食の思いで**

安川有里さんは給食を巡っての会合を開催してきた。そこで給食の思い出を語ってもらい近況へ。お弁当づくりの日々の川辺順子さん「夕食の残りが形を変えて朝食・お弁当へ」との苦笑を受けて、川辺悟史さん「そんな記憶も…。昨年行けなかったジャカランダの式典に参加してきました」。島根三枝子さん「給食が不登校につながったわが子の思い出が」と。鈴木祥高さん「好き嫌いが多く特に肉が嫌いで給食は苦手だった。弟の結婚式へ行って弟の成長を実感した」と。安曇野のお土産をいただきました。高比良秀一さん「仕事が楽しい。」と仕事仲間交流と昼休み風景を報告。それを受けて高比良和枝さん「息子はFANCLスマイルで10年働きました。(一同拍手) 給食には思いではなく、母が忙しく自分で作ったお弁当の記憶が大きい」。飯田高廣さんは「就労支援を辞めちゃったので自力で就職面接を受けています。仕事は無理ですかね…」と。ここで話は広がり仕事とお金。お金のために働くのではなく、働くことで社会とつながることを考えました。若者の働きづらい社会状況、貧困の問題、そして精神疾患と就労支援の問題もでました。一方涌井貴暁さん「精神的な疾患とうまく付き合えて日々が楽しい。先日もアウトドアを楽しみ河口湖へ行ってきました」。さらに蘇武春男さんから障がい者の取り組みの情報提供がありました。障がいと共に生きること、欠席した新舛秀浩さんも7月号でこの辺のことを語っています。



さて7月の応援団会議からゲストをお招きします。1時間はゲストの人生を共有したいのです。ゲストの人生に自分の人生を重ねながら、生きることの意味を見つめませんか。滝田衛

それぞれの風

○3年間付き添った女子が高校へ進学した。以前にも書いた♡バンポオブチキン(Jロックバンド?)大好き、自らもギターを弾く子。慎重な子で高校はサポート校を選んだ。下の絵は、体育祭の旗を描く姿、メールで送ってもらった。自己分析も、言語能力も、音楽・美術センスに優れるが、昼夜逆転に苦戦した4年有余。今は横浜の学校へ通っている。もちろんいろいろなことが起こるだろうが、彼女のエネルギーと才能は無限の可能性の中にある。断りない報告、(笑)



○高橋孝子さんからのお便り抜粋。「すべての子どもが健やかにいざられることをと宮本延春さんが書いてくださっています…(子どもが)学校がきらいにならないようにと祈っております。…応援団会議にどんな方が、どの位、どんな想いでいらっしゃるのか『総会』とか『顔合わせ』みたいなものはなかったのですたっけ！…新舛さんの発行事業の応援、とても良いことと思います。机上のことだけでなくどこかへ出かけて取材、お楽しみ、音楽・美術・歴史など何でも…ひきこもり当事者体験でも良いような気がします。『未来にはばたけ ひきこもり体験を持つ人たち』という思いです。」(梁塵秘抄の一説を添えていただきました)

【ご参加下さい】
応援団会議・作業は横須賀市民
活動サポートセンター
で行います。
誰でも参加できます。
途中参加・中座歓迎です。

7月研究所開設日程 相談時間10時～16時 土日訪問はご相談

6日(水)	講演会:港南中学	24日(日)	応援団会議
7日(木)	相談 滝田塾	28日(木)	相談 滝田塾
14日(木)	相談 滝田塾	29日(金)	発送作業
15日(金)	県小中一貫教育	31日(日)	講演会:金沢区富岡
21日(木)	相談 滝田塾	/	/